

誰もがその人らしく 安心して暮らせる 福祉のまちづくり



多良木町社協だより



可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けていくために

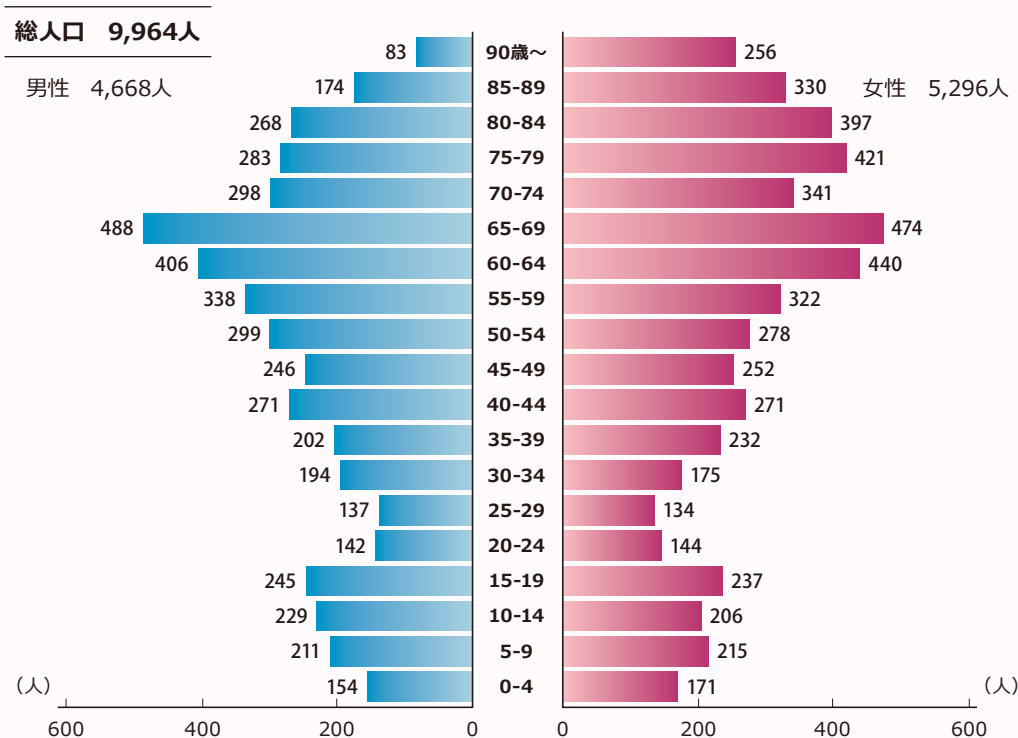
高齢になり、生活をしていく上で困りごとを抱えていても、できる限り自分で日々の生活を考え、自分らしい暮らしをつづけていきたい…。そんな思いを少しずつでもかたちにするために、多良木町では新たな事業に取り組んでいます。それは、『高齢者の生活上の困りごとに対して支援する体制を作り上げていく』事業です。今回はその新たな取り組みをご紹介します。

社会法人 多良木町社会福祉協議会 平成29年3月23日発行

〒868-0501 熊本県球磨郡多良木町大字多良木1571番地1 ☎ (0966) 42-1112 FAX (0966) 42-1113

ふれあいネットワーク

人口ピラミッド（平成29年2月28日現在）



高齢社会に向けた

新たな取り組み

多良木町では、少子高齢化が進み、2016年（平成29年2月28日現在）で、人口9,964人、65歳以上の高齢者は3,792人、高齢化率は38.3%です。今後さらに少子高齢化が進むと予想され、推計では、高齢化率が2025年には43.8%、約20年後の2040年には、45.6%に達し、およそ2人に一人が高齢者になると見込まれています。

地域住民をはじめ、福祉施設、医療、行政などすべてが協力して、福祉の町づくりを進めていく必要があります。その懸け橋の役割として、平成28年度から社会福祉協議会に「生活支援コーディネーター」が配置されました。それとともに、地域住民、福祉施設、医療、行政などの代表が集まり、話し合う場として「協議体」（詳しくは5Pに掲載）という新たな仕組みづくりも始まっています。

このように高齢化が進む中、社会福祉協議会が過去に行ったアンケートでは、75%以上の住民が、老後に不安を感じると回答されています※1。その理由としては、多くの方が「自分や配偶者が寝たきりや認知症になり介護が必要になったときのこと」と述べておられます。今後、高齢者の割合が増加していく中、多くの住民が抱える不安を安心に変えていくため、

※1 平成22年度実施 地域福祉活動計画策定のためのアンケート結果より



懸け橋としての 生活支援コーディネーターとは

(生活支援体制整備事業)



日ごろの生活で困りごとを抱えた高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って暮らし続けるために、いろいろな困りごとに対して支援をする体制を作り上げていく、その一部を担うのが生活支援コーディネーターです。生活支援コーディネーターは、高齢者の困りごとを支援するサービスやその仕組みの調整機能を担い、地域住民、高齢者福祉施設、行政などと連携して支援体制の充実・強化を図ることを目的として活動します。

具体的には

- ・ 今あるサービスや仕組みで困りごとが解決しない場合は、協議体で話し合いをし、既存のサービスや仕組みを充実させて対応できるように、また新たなサービスが必要な場合はそのサービスや仕組みを話し合い行政などの関係する機関に提案します。
- ・ また、地域に出かけていき高齢者の困りごとや要望（ニーズ）、地域に必要な困りごとに対してのサービスや仕組み、介護状態にならないための取り組みなどを把握します。
- ・ 一方で、新たなサービスや仕組みなど必要な担い手を見つけ出したり、見つけ出せない場合は、必要に応じて養成もします。
- ・ さらに、地域の困りごとと必要なサービスや仕組みを組み合わせることで、住民が中心となって取り組む場を作り上げていきます。



生活支援コーディネーターは、これらの具体的な活動を通して、次に説明する『地域包括ケアシステム』を支える基盤整備の役割を担います。特に、地域住民をはじめ、様々な機関を含めて話し合う協議体を中心に、地域で支えあう機能がさらに充実するように、住民の皆様にも積極的に働きかけていきます。そうすることで、住民が中心のお互いが支え合う「互助」を基本とした地域づくりを推進していきます。



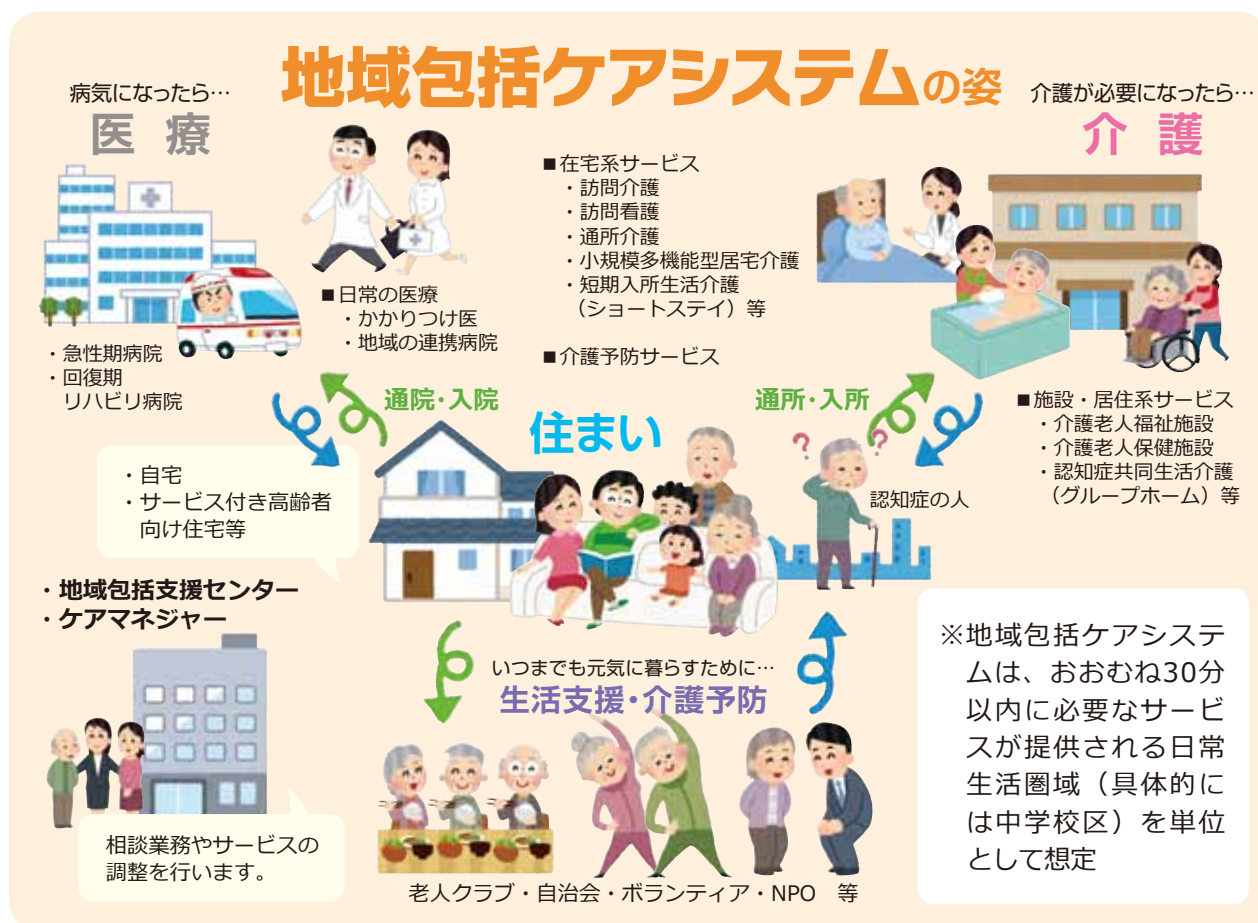
(厚生労働省ホームページより)



地域包括ケアシステムとは

日本において一番人口が多い世代（団塊の世代）が75歳以上になり、介護状態になるリスクが高まる2025年を目途に、重い介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるようにする仕組み。

そのために、住み慣れた“住まい”を中心として、病気になれば状態に応じた病院（急性期のみ入院できる病院や、日常の医療はかかりつけ医が提供するなど）を利用することができて、介護が必要になれば介護状態に応じた介護保険のサービス（訪問型のサービスや、施設に通うサービス、入所型のサービス）を利用し、介護状態にならないための取り組みや、日常生活するための支援（ゴミ出し、見守りなど）は隣近所での助け合いや地域の団体、ボランティアなどで行われることが一体的に提供される仕組み。住まいを中心に30分以内に必要なサービスが提供される。



（厚生労働省ホームページより）

国は地域の実情に合わせた「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。それを受けて多良木町でも、高齢者の尊厳の保持と自立した生活を支援するために「多良木町地域包括ケアシステム」を作り出すことに取り組んでいます。



協議体について

多良木町版、地域包括ケアシステムをつくりあげるため、一緒に考えていくための場所。

地域住民の参画のもと話し合いと情報共有の場である協議体とは？

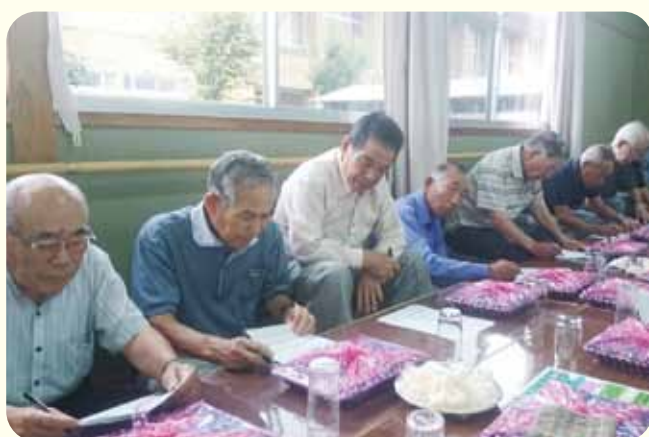
行政が中心となり、生活支援コーディネーターと協力して、地域の支え手が参加して定期的な情報共有と連携強化の場として中核となるネットワークを「協議体」といいます。地域の高齢者に対する分野では、住民をはじめボランティア団体、福祉団体、行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター、高齢者福祉施設、高齢者向けにサービスを提供する一般の事業所、地域の病院など、いろいろな地域の支え手に参画してもらう必要があります。また、協議体では、地域の困りごとや要望（ニーズ）の解決策、対応策などをメンバーで話し合い、一緒に考え既存のサービスの新たな活用方法や困りごと、要望に応じた仕組みを考え提案します。



多良木町でも 活動を はじめています

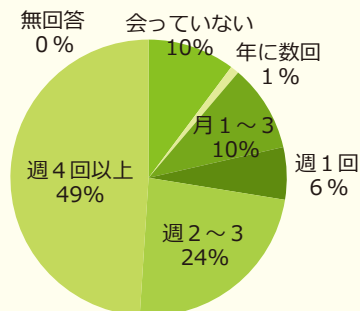


地域の高齢者を対象に意向調査を実施しています。これまでに多良木6区の1、6区の2、6区の3の敬老会や多良木7区の2のいきいきサロンで意向調査を実施しました。また、一人や二人で暮らしておられる高齢者には、家庭を訪問して意向調査を実施しています。この調査は、高齢者が地域で生活していく上での困りごとや要望（ニーズ）を調べ、高齢者がどのような課題を抱えているのかを把握することが目的です。また、調査の結果から地域の課題の掘り起こしにもつなげることができます。



問 どれくらいの頻度で人と会っていますか？

《回答者数90名》

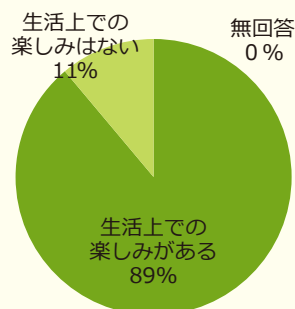


※ (意向調査で上がってきたご意見)

ご近所の方、友人ともにたくさんの人と会っている
 グラウンドゴルフの時に人に会う
 趣味活動を行う際に会っている
 サロンの時に会っている
 仕事上、お客さんとの接待にて会っている

- 人に会う頻度について、「週4回以上」(49%)、「週2～3回」(24%)、「週1回」(6%)、「月1～3回」(10%)、「会っていない」(10%)、「年回数」(1%)となっています。

問 どんなことが楽しみですか？

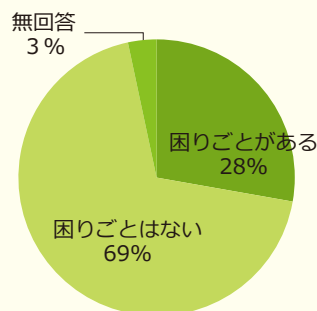


※ (意向調査で上がってきたご意見)

食事、外出
 友人や仕事仲間などの食事会・茶話会・介護予防教室
 趣味活動（囲碁・将棋、川柳・俳句、ゴルフ、油彩、紙粘土、絵手紙）

- 生活上での楽しみについてたずねたところ、「あり」が(89%)、「なし」が(11%)となっています。

問 困りごとはないですか？

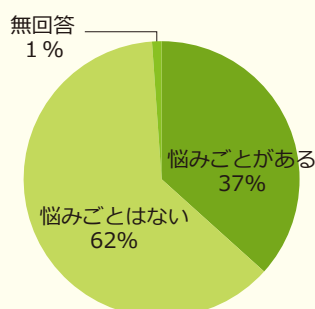


※ (意向調査で上がってきたご意見)

力仕事が出来なくなった
 外出に不安がある
 生活面で先行きが不安
 毎日の生活が自分で出来ないので困っている
 病院通いが家族に世話をかけている

- 「困りごとがある」方は全体の(28%)、「困りごとはない」方は(69%)となっています。

問 悩みごとはないですか？

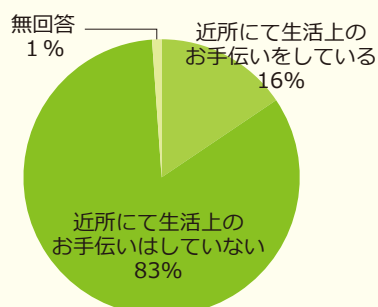


※ (意向調査で上がってきたご意見)

健康について（膝関節痛）
 歩けなくなったらと考える
 夜が眠れない
 家族を老人ホームにお願いしていること
 病院に行くのに困る
 1人暮らしで心配

- 「悩みごとがある」方は全体の(37%)、「悩みごとがない」方は(62%)となっています。

問 近所にて生活上のお手伝いをされていますか？

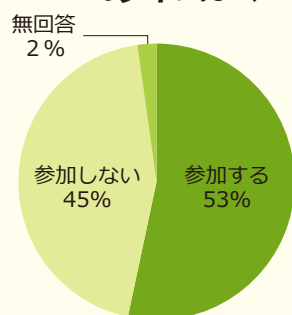


※ (意向調査で上がってきたご意見)

ゴミ出し
 声かけ
 外出の付き添い等
 話し相手
 草とり

- 「近所にて何らかの生活上のお手伝いをしている」方は全体の(16%)、「近所にてお手伝いをしていない」方は(83%)となっています。

問 週1回の介護予防を目的とした集まりの場があれば、参加されますか？

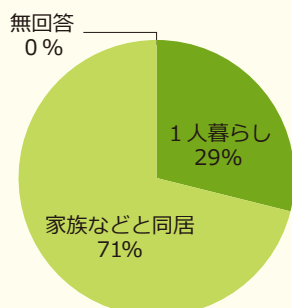


※(意向調査で上がってきたご意見)

楽しく話し出来る場所
介護人がいるので参加出来ない
おしゃべり会
色々な集まりに参加している
趣味での集まり

●「週1回の介護予防を目的とした集まりの場があれば、参加する」と答えた方は全体の(53%)「参加しない」と答えた方は(45%)となっています。

問 何人暮らしですか？（家族構成・配偶者・孫など）

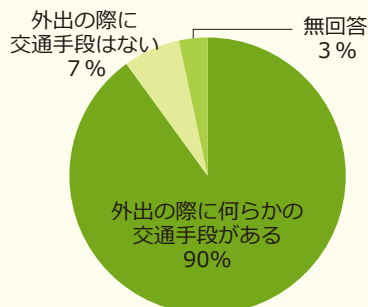


※(意向調査で上がってきたご意見)

1人暮らし
2人暮らし
3人暮らし
4人暮らし
5人暮らし
6人暮らし

●家族構成は、「1人暮らし」が(29%)、「家族などと同居」が(71%)となっています。

問 外出の際の交通手段について（買い物や通院時など・公民館まで歩いていけますか？）



※(意向調査で上がってきたご意見)

歩き
自転車
自動車(家族に乗せてもらっている)
バス
タクシー

●外出の際の交通手段については、「何らかの交通手段がある」方が(90%)、「交通手段はない」と答えた方が(7%)となっています。

さらに地域の代表者の皆さんにも地域の強みや課題に関する意向調査を実施しています。これらの調査によって地域の困りごとや要望（ニーズ）を把握し、協議体でそれらに対応できる仕組みづくりにつなげていきます。多良木町では、住民代表、行政（健康・保険課）、上球磨地域包括支援センター、社会福祉協議会が連携し、協議会を作るための「生活支援体制整備事業研究会」を立ち上げました。これからは、この研究会を中心に、平成29年度中に新たな仕組みを考える多良木町版の「協議体」が誕生します。



地 域 の 輪

支え合い 助け合って みんなで広げよう

多良木町地域包括ケア会議

多良木6区の1・6区の2・6区の3の取り組みをご紹介します

地域包括ケアシステムを実現させることを大きな役割とする地域包括ケア会議が、平成28年度はモデル地区として多良木6区で開催されています。多良木6区の住民の皆さん（各区長、民生委員、婦人会、老人クラブ、子ども会、消防団の代表）と上球磨包括支援センターが中心になり、さらに、行政（地域振興局、町健康・保険課）、社会福祉協議会、居宅介護支援事業所（優光・あずみ野）等が実行委員として参画し、5回の会議が実施されました。この会議の中で意向調査が、高齢者個人や地域の困りごと・要望を抽出することに活用されました。その調査結果をもとに、平成28年12月に多良木6区住民参加の研修会（ワークショップ）が開催されました。当日は小グループに分かれ、『地域の強み・誇り・自慢』と『あったらいいな～』と思う日常生活のお手伝いの方法やサービスなどについての意見交換が行われ、それらの意見を全体で共有することができました。



多良木町で行われている 地域福祉活動やボランティアなど福祉事業を掲載!!

多良木町社会福祉協議会ホームページ

【アドレス】

<http://taragi-shakyo.or.jp/>

または、“多良木町社協”で検索

→

検索

QR
コード



スマートフォン・携帯電話からも閲覧できます。

多良木町社会
福祉協議会の
ホームページ
開 設

「たとえ小さな一歩でも、昨日より確実に前へと進んでいること」が、わたしたち「社会福祉法人多良木町社会福祉協議会」のモットー（合い言葉）です。皆さまのお役に立てるようタイムリー（適時）な情報発信を心がけてまいりますので是非とも閲覧ください。

地域福祉の情報が盛りだくさん!!

町内のボランティア活動を紹介!!

社協が行う介護保険事業の最新の活動も掲載!!

福祉の相談や貸付事業などについてもわかりやすく説明!!

昨年度まで、予算・決算・貸借対照表を掲載しておりましたが、今年度より社会福祉法に基づき、ホームページ上で公表しております。

この広報誌は、共同募金の配分金の一部を活用して作りました。